

# 生命科学系 研究者のための ジャーナルガイド



# コンテンツ

## 生命科学系論文 のための スタイルガイド

- 学術論文における生物の名表記に関する4つのアドバイス

## 著者のための ジャーナルガイド

- 「Cell」
- 「BBRC」

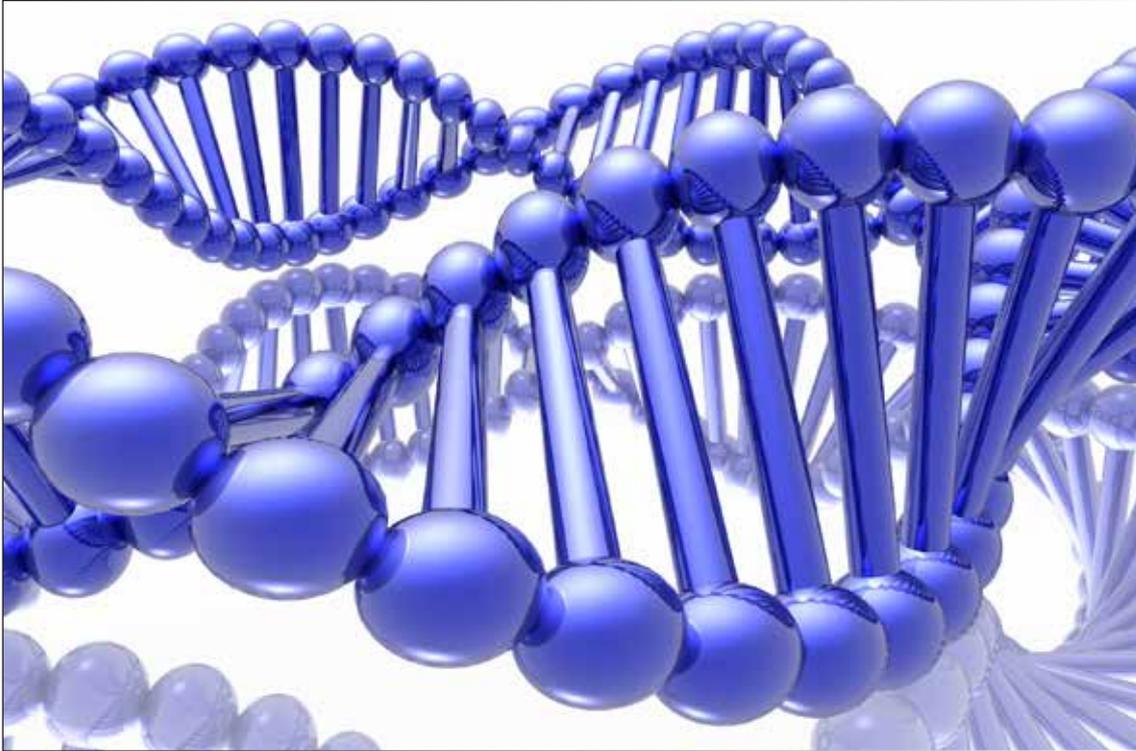
## グローバル・ トレンド

- 幹細胞研究にあふれるスキャンダル
- 慢性疾患に対する新たな治療方針「ファージ療法」

## 論文投稿に 役立つサービス

- 生命科学分野に特化した論文投稿サポート
- 査読コメント対策サービス付き  
プレミアム  
英文校正プラス
- エディテージ・  
コンシェルジュへ  
ご相談を

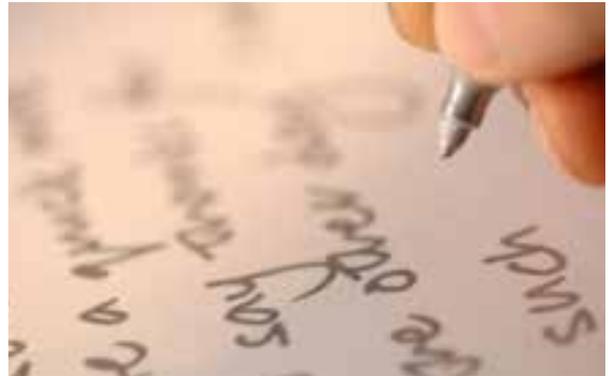
# 生命科学論文のための スタイルガイド



ライフサイエンス分野の学術論文における  
「生物の学名表記」と「細菌の学名表記」に  
関する記事をご紹介します。知っておくと便利です。

# 生物の学名表記スタイルについてのアドバイス

数量化(計算、測定すること)は科学において重要であり、研究とは切っても切れない関係にあるので、測定量を表すために厳格な規則と慣例が、国際単位系(Le Système International d'Unités (SI))という形で発展してきました。生物の命名を定めているのも、それと同様の、精緻で厳格なシステム、あるいはシステム群です。



これらのシステムは、

- ・国際動物命名規約(International Code of Zoological Nomenclature )
- ・国際細菌命名規約(International Code of Nomenclature of Bacteria )
- ・国際藻類菌類植物命名規約(International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants )

のように、命名規約と呼ばれています。ここでは、どんな名前にも適用可能な、スタイルに関する4つの基本的なポイントを取り上げます。

たいていの研究論文でよく使われているのは、種の名前です。常にラテン語で書き、2つの部分に分かれています。ですから、binomialという語が使われるのです。

たとえば、イネの学名はOryza sativaといい (Oriza はラテン語のイネ、Sativa は栽培品種という意味です)、人類の学名はHomo sapiens といいます (Homo:ラテン語で人間という意味、Homo sapiens :賢い人という意味)。

最初の部分のHomoは名詞、2番目の部分のsapiensは最初の部分を就職する形容詞です。ですから、2番目の部分は種形容語(specific epithet)と呼ばれています。

著者として、種の名前を使うときに意識しておかなければならない、基本的なポイントを注意してみよう。

## 1. 大文字化:

最初の部分は属の名前を表し、常に大文字で始めます。2番目の部分は、種の名前を表しますが、大文字にしてはいけません。著者が覚えておかなければならないことは、ドットの前に一つだけ文字が来る場合(たとえば T. turgidum (訳注;Triticum turgidumの省略形。リベットコムギ)、マイクロソフト社のワードではドットはピリオドとみなされるので、自動的に次の字を大文字に変えてしまうということです。けれども、種の名前は大文字から始めてはいけません。1文字の省略形から文を始めることができるかどうかは、ジャーナルによってスタイルが異なるポイントです。許容するジャーナルもあれば、前にその語が出てきた時に略さず書いてあっても、属名であれば必ず完全体で書くよう求めるジャーナルもあります。

## 2. イタリック体：

これらのbinomials(二名式)は、イタリック体で書きますが、イタリック体は、その周りの本文と学名を区別するためのものであると覚えておくに役立ちます。周りの文章がもしイタリック体で書かれていたら、学名は普通にまっすぐ立たせた文字で書きます。

## 3. 省略形：

初出時には完全なbinomialで書き、それ以後は属名を省略してイニシャルだけにすることが多いです。

例：‘The most commonly grown species of wheat is *Triticum aestivum* , or common or bread wheat. Macaroni wheat is *T. turgidum* and emmer wheat is *T. dicoccum*.’

論文では、様々な属に属する種について論じることがあるかもしれません。

*Solanum tuberosum* (ジャガイモ) と *Sorghum bicolor* (モロコシ、キビ) のように、偶然イニシャルが同じになる属もあるでしょう。

属名については3文字の省略形を使ってもよいとする規約もありますが、*Scientific Style and Format* では、明確に、3文字の省略形を使わせないようにしています[1, p. 379]。

## 4. 詳細不明の種への言及：

時には、正確に種を特定せず、一つ以上の種について言及しなければならないことがあります。つまりbinominalの2番目の部分を述べないということです。そういう場合は、慣例として‘sp.’ (単数形)あるいは‘spp.’ (複数形)を使います。

たとえば、‘several *Triticum* spp. were compared’ とか ‘the collection included two specimens of *Zea mays* , three of *Oryza sativa* , and one of *Sorghum* sp.’ のように書きます。

このように省略された語は、イタリック体で書かず、いつも最後にドットをつけることを覚えておいてください。

[1] CSE, Style Manual Committee. 2014. *Scientific Style and Format: the CSE manual for authors, editors, and publishers* , 8th edn. Wheat Ridge, Colorado, USA: Council of Science Editors. 722 pp.

# 細菌の学名の表記スタイルに関するアドバイス

学名とは、正確に同定するためのラベルです。情報という金庫室を開けることができる「鍵」なのです。検索エンジンで、ある生物の普通名詞 (common name) を入力したときと、学名 (scientific name) を入力したときで、検索される情報の種類を比べてみましょう。鍵のたとえばまったく適切であったことに気づくでしょう。



前の記事「学術論文における生物の学名表記に関する4つのアドバイス」について取り上げましたが、今回は細菌に焦点を当てます。細菌の名前は、国際細菌命名規約 (International Code of Nomenclature of Bacteria) で定められています。

## 接続詞:

一般に、細菌名のスタイルは、動物名のスタイルより植物名のスタイルに近いと覚えておくと役に立ちます[1]。たとえば、植物名において、著者の名前に二名式 (訳注: 属名と種名とを並べてあらわしたもの) が付け加えられた場合、2名の著者がいるときは接続詞 *and* が使われますが、動物名では、2名の著者の後、二名式とラテン語の接続 *et* (あるいはアンパサンド符号 *&*) が続きます。

## 亜種の分類群:

種は亜種 (subspecies) に分けられることがあります (亜種の省略形は “*subsp.*” ですが、その場合はイタリック体になりません)。亜種の名前は種形容語 (訳注: 属名と種形容語で書かれた学名の2番目の語) でもあり、イタリック体で書きます。 *Staphylococcus aureus* (黄色ブドウ球菌) の場合は、*subsp. aureus* と書きます。

細菌分類 (学) では、亜種のレベルより下にその他の階層 (あるいは分類群) があります。血清型 (*serovar*)、病原型 (*pathovar*)、次亜種 (*biovar*) です。

省略形の *cv.* (品種 (*cultivar*)、あるいはさまざまな品種 (*cultivated variety*)) は、植物名にはもはや使われていませんが、省略形 *pv.* (*pathovar*) は、細菌名では認められています。(上で挙げた規約は、亜種の分類群を扱っているわけではありません。*pv.* の使用は、国際植物病理学会が推奨しています。)

血清型 (*Serovar*) は、血清学的な異型 (抗原としての行動や反応において異なる) に言及するとき使われます。変種 (*variety*) については、古い書き方の接尾辞 *type* をつけていたのが、接尾辞 *var* に変わっています[2]。

スタイルに関する多くの点が、集団によって違っています。

AMA Manual of Style では、これらの点の多くを詳細にわたり取り上げています[3]。

## 省略形:

ちなみに、subsp. や pv. のような省略形の後にドットをつけるかどうか、というのはスタイルの問題です。たいていのスタイルガイドではドットがついていますが、AMA Manual of Style はドットを省いています。

[1] CSE, Style Manual Committee. 2014. Scientific Style and Format: the CSE manual for authors, editors, and publishers , 8th edn, p. 401. Wheat Ridge, Colorado, USA: Council of Science Editors. 722 pp.

[2] Piqueras M and Guerrero R. 2013. Bacteriological nomenclature, pp. 59–62 in Science Editor' s Handbook , 2nd edn. edited by P Smart, H Maisonneuve, and A Polderman. Redruth, Cornwall, UK: European Association of Science Editors. 231 pp.

[3] AMA. 2007. AMA Manual of Style: a guide for authors and editors , 10th edn., pp. 748–753. New York: Oxford University Press [and American Medical Association]. 1010 pp.

# 著者のための ジャーナルガイド



ジャーナルの概要や目的について知っているとは便利です。  
今回は、Cell Pressが発行している『Cell』とエルゼビアが  
発行している『Biochemical and Biophysical Research Com-  
munications (BBRC) 』についてご紹介します。

# ジャーナル ファイル #1

## CELL

### 掲載基準

原稿のフォーマットに関する詳しいガイドラインは、[Research Article Formats](#) をご覧ください。

### 編集方針と投稿規程

- 論文の投稿はElsevier Online System から行ってください。
- Cell には著者資格基準、利益相反の宣言、ヒトと動物の参加に関し、いくつかの方針があります。



方針については、こちらをご覧ください

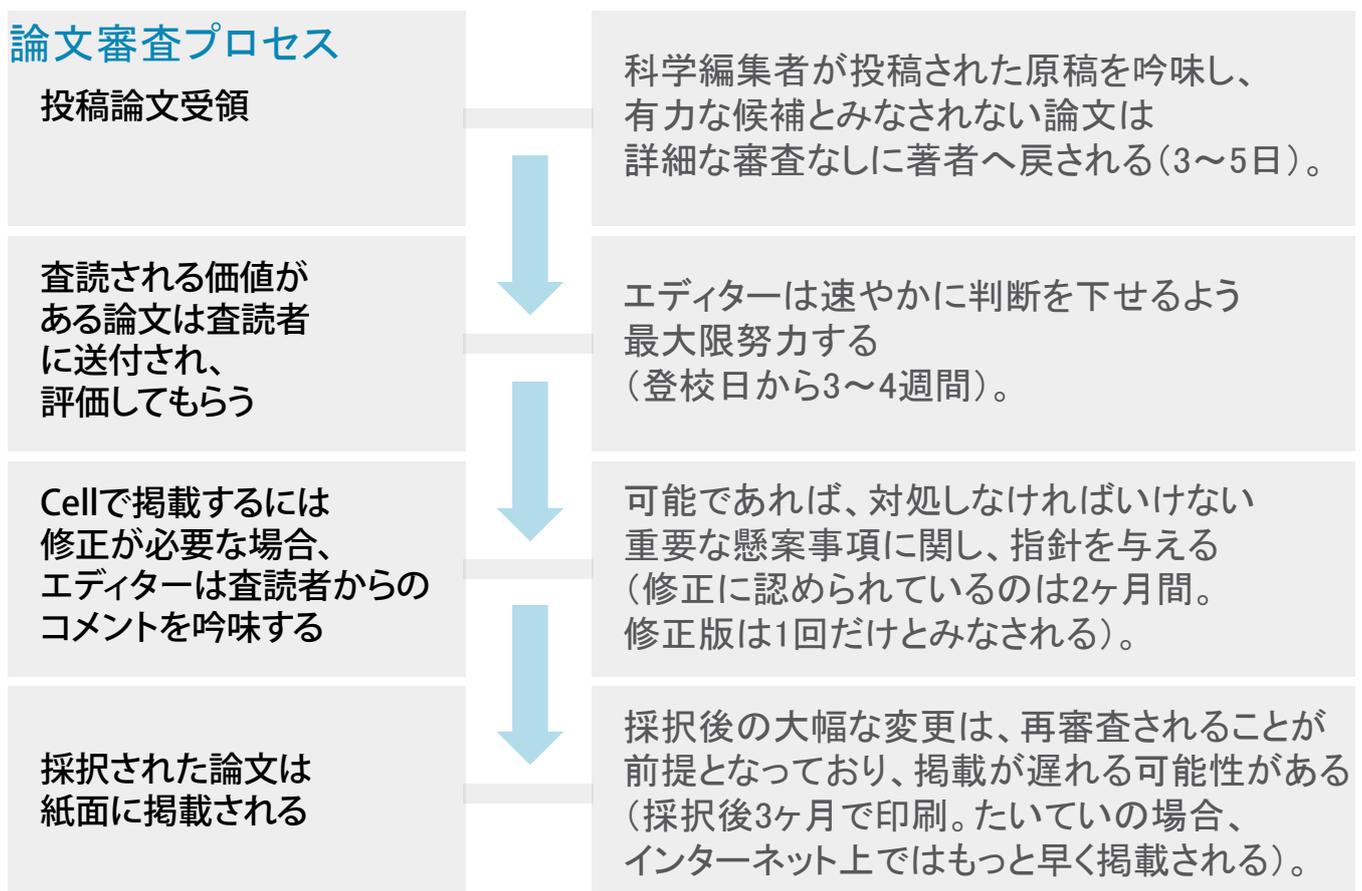
<http://www.cell.com/cell/authors#policies>.

### 論文転載の方針:

Cell Pressでは、柔軟性、効率性、著者の管理を最大限にすることをねらった論文転載の方針を開発しています。

Cell Pressのジャーナルで、ある論文が審査され不採択になった場合、そのジャーナルのエディターは、著者からの要請により、Cell Pressの別のジャーナルのエディターが、審査結果と審査者が誰かを、知ることができるようにしています。この選択肢に関心のある著者は、2番目のジャーナルのエディターに直接メールしてください。

### 論文審査プロセス



## グッドプラクティスの実践

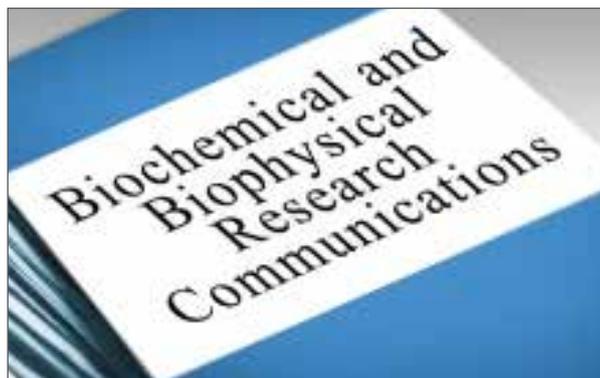
- Cell の論文はスペースを含んで55,000字以内、図表は7つまでとします。
- 新しい遺伝子配列、タンパク質配列、構造、マイクロアレイデータについては、データベースの登録番号を付記すること。
- 実験手続きの節では、必ず統計的方法を説明し、手続きについて十分に詳しく書くこと。
- 集積されたデータを示す図では、図のキャプションで尺度を定義してください。
- 掲載決定後に最終版を提出するときはEditorial Managerを使い、以下のすべてを付記してください。
  - ◆ 本文は、修正可能な電子版で提出  
(マイクロソフト・ワードの .docx ファイルが望ましい)
  - ◆ 図は、デジタルの図に関するガイドラインで指示されている特定のフォーマットによる、高解像度デジタルファイルで提出
  - ◆ 補足情報は補足情報ガイドラインにしたがいフォーマットを整え、提出
  - ◆ 動画やスプレッドシートなど追加の補足情報ファイル
  - ◆ 署名をした利益相反フォーム
  - ◆ 研究結果の文脈と重要性を述べた短い文章(100語)。電子メールのアラートに使用される。
  - ◆ カバーレター

## インパクトと格付け

- 31.957 ( 2012 Journal Citation Reports)
- 全分野、最高レベルのインパクトジャーナルのカテゴリーで総合1位 (Sciencewatch)

# ジャーナル ファイル #2

## Biochemical and Biophysical Research Communications (BBRC)



### 出版基準

- BBRC では一般論文 (regular articles) とミニレビュー (mini reviews) を受け付けています。
- フォーマットに関する必要条件、ファイルの準備、カラー印刷指定の手数料など、論文投稿の手続きは、投稿規程 (Guide for authors) にすべて記載されています。
- 論文は4,600語以内にしてください。この中には、表紙、すべての節 (引用文献も含む)、図表のキャプションも入ります。図は4枚以下にすること。

### 編集方針と投稿規程

- 論文は、[Submit your paper](#) からワード形式で投稿してください。本誌への投稿はインターネットから行われていますので、案内どおりにファイルの作成や更新をしてください。
- オープンアクセス: 論文は、投稿者と、再利用を認められた一般の人は、無料で利用することができます。[オープンアクセス出版手数料](#)を支払うのは、著者、あるいは著者の研究資金提供者です。
- 投稿準備について詳しくは「投稿規程 (“Guide for Authors”)」をご覧ください。  
<http://www.elsevier.com/journals/biochemical-and-biophysical-research-communications/0006-291X/guide-for-authors#4000>

### 論文査読プロセス

**一次審査:** 著者がエディターを提案する必要はありません。

論文は専門をふまえ、編集委員会のメンバーに割り当てられます。

**査読:** エディターは、論文をそのまま受け入れるか

同業者に査読してもらうか、不採択にすることができます。

**最終審査:** 通常は論文受理から2週間以内に、採択か不採択かの判断を受け取ることができます。修正要求がなされるのはまれです。エディターが修正を要求する場合は、論文は新しい投稿として扱われるでしょう。

それからは、記事差し止めが求められていない限り、直ちに掲載されます。

## グッド・パブリケーション・プラクティス

- 利益相反、倫理などに関する情報は、「始める前に(“Before You Begin”)」をご覧ください。

<http://www.elsevier.com/journals/biochemical-and-biophysical-research-communications/0006-291X/guide-for-authors#4000>

## 役に立つリンク先

- 論文を読むには、以下をご覧ください:

<http://www.sciencedirect.com/science/journal/0006291X>

## インデックスと評価基準 (INDEXING AND METRICS )

- インパクト・ファクター: 2013年は2.281  
(過去5年間のインパクト・ファクターは2.474)

- 以下の索引に掲載されています。

Biological Abstracts

Chemical abstracts

Current Contents/Life Sciences

EMBASE、EMBiology

Excerpta Medica

MEDLINE®

SCISEARCH

Science Citation Index

Scopus

# 話題のトピックをキャッチ グローバル・トレンド



世界の生命科学分野では今何が起きているのでしょうか。  
こちらのコーナーでは話題のトピックを2本お届けします。

# 幹細胞研究をめぐるスキャンダル



2014年、もっとも不名誉な研究不正行為は、日本の理化学研究所多細胞システム形成研究センターで起きた小保方晴子氏によるSTAP細胞研究でしょう。

この論争から世界中の科学者たちは、10年前の同様のスキャンダルを思い出しました。2004年2月、韓国の科学者である黄禹錫(ファン・ウソク)は、ヒトのクローン胚から幹細胞株を取り出すのに成功したと主張しました。これは、この細胞株からヒトの体のどんな細胞でも治療目的で作成できることを意味していました。

そうしてできた細胞は、すべての患者に遺伝子的に合致させることができ、患者の免疫システムからうまく逃れられる可能性がありました。この主張により、幹細胞研究の分野はただちに、かつてないほどの注目を浴びることになり、可能性について大いに興奮させました。けれども、研究結果が偽造されていたことが明らかになるや、メディアの攻撃の矛先は科学コミュニティに向けられました。これは、「STAP細胞問題」の後に目撃されたことと似ています。2つの主要な論文が撤回され、何人かの科学者のキャリアはあっけなく幕を引かれることになりました。

幹細胞研究では、ほかにも似たような悪評高い事件が起きています。その一つが、幹細胞を用いた心臓病治療にかかわるドイツ人研究者Bodo-Eckehard Strauer氏の研究です。Strauer氏は骨髄内の間葉幹細胞により、心臓の損傷を治すことができると主張しました。彼が大いに論争の的になったのは、ドイツにあるデュッセルドルフ大学(2009年にこの大学を退職)に在職中、初めて、ヒト幹細胞で心臓の損傷を治せると主張した2001年のことでした。この主張の疑わしさに関するメディアの報道とともに、数名の幹細胞研究者も疑念を公式に表明していました。the International Journal of Cardiology 掲載の最近の論文で、彼の研究グループが発表した48の論文が入念に分析され、一連の疑問を提起しています。その中には、統計的分析における計算誤差に関わる疑問や、異なる体格の患者から同一の反応が得られたことに関する疑問があります。

もう一つ別の有名な事件には、心臓幹細胞治療分野のアメリカ人研究者たちが関与しています。ハーバード大学のPiero Anversa 教授によるSCIPIO治療に関する最初の研究が、研究不正に関わっています。この研究では、大動脈由来の心臓幹細胞が心臓麻痺の治療に使われ満足いく結果が得られたと主張されていました。ハーバード大学は現在、2011年Lancetに掲載された、この研究を実証した論文に示されているデータの一部の信頼性を調査しているところです。

さらにもう一つ論争を引き起こした事例は、ビタミンA酸に2時間浸し培養すれば骨髄細胞を神経細胞に変えることができると主張したイタリアのStamina財団が進めた幹細胞

治療です。さらに、これらの細胞を、患者の体内に注入すると、神経の損傷を治すことができるということでした。

けれども、イタリアの保健省 (Ministry of Health) は、Stamina財団による幹細胞治療は十分な論理的・実用的基盤に欠け、根拠がないと判断しました。

ではなぜ、幹細胞研究をめぐるこれほどまでに多くのスキャンダルが起こり、こんなに深刻に受け止められているのでしょうか？

3つの理由があると私は考えています。

1. 幹細胞研究の分野が拡張し、そのため問題が生じる可能性が増えています。これが唯一の主たる原因ではないと思っています。たとえば、神経科学は幹細胞研究よりポピュラーですが、論議ははるかに少ないです。
2. 幹細胞研究は極めて利益に導かれやすい(利益駆動型)分野です。変革をもたらす大いなる可能性を秘めており、これは商業的な影響も莫大であるということを意味します。それにより、研究者側が商業側に「拉致される(“kidnapped” )」可能性が生まれています。生物医学における新しい分野として、幹細胞研究は医療、特に再生医療における最大の希望の光です。幹細胞治療により、すばらしい可能性を夢見ることができるのです。この魅力が時に、将来への期待を広げさせ、患者を欺き、論争を引き起こすことがあります。こうした傾向は、学者たちにも重大な影響をもたらし、ドイツとイタリアの幹細胞事件への注目が、幹細胞研究を行う企業に利潤追求活動の引き金になっています。
3. 学術論文に対し、高い注目やメディア報道を求めることは、世界的に見てももとには戻せない傾向になっています。幹細胞研究にもそれはあてはまります。ニュースとして取り上げられ、注目を浴びるために、学者たちは、認知度を高めようと信頼性を犠牲にしても論文を発表し、研究結果の捏造といった極端な手段まで選んでいます。このような動向は、幹細胞研究という極めて競争的な分野に対し長期的な影響をもたらしていますが、幹細胞研究だけでなく、生命科学全般にとって痛ましいことです。

3つの要因の影響は着実に増しています。幹細胞研究の混乱は、幹細胞の有用性が確立され、肝細胞研究への注目が大幅に減少するまでは、おそらく今後も続くと思われます。

# 慢性疾患に対する新たな治療方針： 「ファージ療法」



革新的な研究アイデアを生み出すには、一般に、学際的アプローチが有効です。ここでは文献レビューの一部として展開されたアイデアを例に挙げようと思います。

薬物耐性のある細菌感染の治療にファージを使うことの効果が、研究によって確認されています。腸内に病原性細菌種がいるために、肥満糖尿病のような好ましくない結果が生じるおそれがあります。しかしながら、疑問が1つ残ります。

## ファージの宿主特異性の高さを慢性疾患の予防・治療法を確立するために活かすことができるのでしょうか？

人間の体には何兆もの細菌や微生物がいます。微生物は、皮膚の上にも、腸管にも、口にも、他の部分にもいます。解剖学上の部位で見つかる微生物は一般的には、正常細菌叢 (normal flora) といい、常在微生物叢 (indigenous microbiota) と呼ばれることもあります。フローラ・ゲノミクス (Flora genomics) とは、正常細菌叢について研究する分野です。これらの細菌の多く (特に腸内細菌) は、人間の健康を維持するため重要な役割を担っています。

数年前のことですが、アメリカの科学者がヒトマイクロバイーム計画 (Human Microbiome Project) の一環として、これらの細菌種について調査しました。研究の結果、健康な成人には1万種を超える様々な細菌種が存在していることが明らかになりました。腸内のある種の病原性細菌には、肥満性糖尿病やその他の病気を引き起こす可能性があることを示した研究もあります。そうした細菌の増殖を抑えることにより、健康が改善し、病気が治ることすらあるのです。特定の抗生物質の使用は、細菌を殺す一番簡単な方法です。けれども、抗生物質の重要なデメリットは、選択性に乏しく、有益な腸内細菌叢を乱してしまうことです。ですから、慢性疾患の治療に適した方法とはいえません。これらの疾患の予防・治療には、細菌に対抗するためのもっと具体的な方法が必要です。

冷戦のせいで、かつてのソ連の患者は、欧米で開発された先進的な抗生物質を手に入れるのが困難でした。この障害を克服するため、かつてのソ連は、細菌感染と戦うのに適したウイルス (バクテリオファージ) 治療の開発を進めるグループに多くの資金を注ぎました。ロシア、グルジア、ポーランドでは今でもバクテリオファージ療法が非常にさかんです。ただし、他の国ではこの療法は承認されていません。

抗生物質耐性の驚くべき増加を受け、欧米の科学者と政府は、バクテリオファージ療法が細菌の薬剤耐性に対処する代替治療方針にならないか、熟考し始めています。2014年3月、国立アレルギー感染症研究所 (NIH/アメリカ)は、抗生物質耐性に対処する7つの方法の1つとして、バクテリオファージ療法を挙げました。

2014年5月ボストンで開かれたアメリカ微生物学会会議 (American Society for Microbiology Conference)にて、スイスにあるローザンヌ大学のグレゴリー・レッシュ (Grégory Resch) 教授が Phagoburn プロジェクト (マイクロファージ療法に関する、ヨーロッパで立ち上げられた初めての多施設臨床試験プロジェクト) を紹介しました。EUがイニシアティブを取っている、この研究プロジェクトの目的は、ファージを用いた、ヒト感染症治療法を開発することです。

ファージ療法の主な利点は、その宿主特異性にあります。ある種のファージは、ある種の細菌種だけに侵入し、宿主を殺します。正常細菌叢内で有害な細菌だけを標的にするには、正確さが必要です。ファージには、宿主となった特定の細菌種だけを感染させるという独特の能力があるため、ファージの利用によって正確な攻撃が可能になるのです。何年もの研究により、ファージと、ファージが宿主にする細菌は比較的容易に特定できることに、科学者たちは気づきました。自然な環境はファージにとって最大の資源であり、相互感染が起こるのは非常に稀です。理論的にいえば、ほとんど一つ一つの細菌種が、それに対応する1個以上のファージに感染することになります。

さらに、遺伝子工学の進歩により、標的とする細菌を特別に感染させることができる人工ファージの作成も可能になりました。

先日、合成生物学者のティモシー・ルー (Timothy Lu) 氏とマサチューセッツ工科大学の彼の研究チームが、DNAプログラミング技術 (CRISPR) を使って人工的に作り出されたファージを作成しましたが、それは薬剤耐性細菌だけ特別に感染させ、殺すことができるファージです。

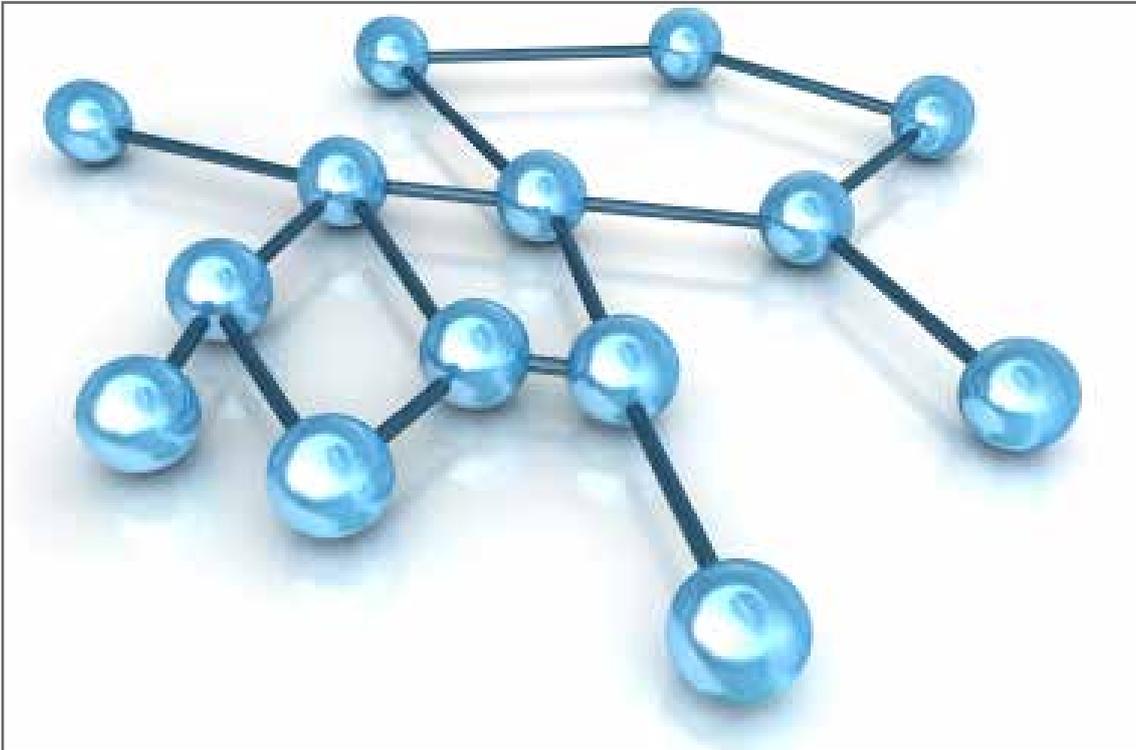
このファージは、RNAの断片とともに薬剤耐性遺伝子を運ぶ標的細菌に侵入します。その細菌が薬剤耐性遺伝子を1運んでいるとすれば、RNAの断片により、遺伝子の配列をわからなくしてしまうことができます。それによりさらに、Cas9酵素が細菌のDNAを切断し、細菌を殺せるようになります。今後、こうした方略を使い、もっと多くの人工ファージが作成されるでしょう。

要するに、自然界のファージ、人工のファージとも宿主特性が効果的に使われ、特定の細菌を攻撃できるのです。腸内細菌叢の調整による適切な予防法の確立、慢性疾患の効果的治療に対し、このファージの特性が役に立つでしょう。

この手法の効果と特殊性を実証するには、適切な動物実験を計画しなければなりません。対人臨床試験は、この治療法の長期的安全性が確立された後でのみ、その効果を評価するため行うことが可能です。唯一、この治療法に関するリスクは、腸内細菌叢が乱れ、疾患の予防・治療という目標が失敗するかもしれないということです。

Pick Up!

## 論文投稿に役立つサービス



エディテージでは生命科学分野に特化した論文投稿支援をおこなっています。ぜひどうぞお試しください。

# 生命科学分野に特化した論文投稿サポート

エディタージュでは生命科学分野の英文校正、学術翻訳、論文投稿サポートをおこなっております。生化学・遺伝学・分子生物学、神経学・神経科学、薬学、植物学・動物学の4つに細分化されトレーニングを受けた専門校正者チームが175の関連専門分野に対応します。各分野の知識を持った担当校正者と校正マネージャーがお客様の原稿をダブルチェックし、出版に適した英語原稿に仕上げます。



## ◎生命科学エキスパート

校正者チームは英語ネイティブでMr、Ph.D、Drの学歴・資格を持つもの、校正者の国際認定資格BELS取得者、またはすぐれた英語力および長年の校正・編集経験のあるベテラン構成者のみを採用するため、採用率はわずか0.5%。ご依頼のたびに頂くお客様からのフィードバックを元に厳しい校正者選びとトレーニングを行っています。

## ◎生命科学分野の掲載ジャーナル

エディタージュで英文校正後に論文が掲載された生命科学分野のジャーナル一覧です

出版社名:	BMJ Publishing Group Ltd.
ジャーナル名:	British Medical Journal (BMJ)
インパクトファクター:	14.093

---

出版社名:	American Chemical Society
ジャーナル名:	Journal of the American Chemical Society
インパクトファクター:	10.677

---

出版社名:	Elsevier
ジャーナル名:	Current Biology
インパクトファクター:	9.647

# 査読コメント対策サービス付きの プレミアム英文校正プラス

従来のプレミアム英文校正に「査読コメント対策サービス」が付いた『プレミアム英文校正プラス』が登場しました。

論文投稿後にジャーナルから繰り返し修正を求められることはよくありますが、査読コメントへの回答は論文採択の成否を左右するほど重要です。『プレミアム英文校正プラス』なら全部カバーするので安心です。

査読コメントへの回答の英文の正確性、内容の説得力、修正内容との一貫性をチェックします。料金は1英単語16円～。



## サービス選択に迷ったらご相談ください! エディタージ・コンシェルジュ

エディタージではお客様の論文投稿のお悩みや、原稿の内容、投稿先ターゲットにぴったり合ったサービスを選んでいただくために、エディタージ・コンシェルジュによる相談窓口をご用意しています。お客様のお悩みをヒアリングし、ニーズにあったサービスをご案内いたします。



詳細はこちら

[www.editage.jp/getstart/concierge.html](http://www.editage.jp/getstart/concierge.html)

英文校正エディタージ  
[www.editage.jp](http://www.editage.jp)

お問い合わせ・お見積もり

03-6868-3348 | [submissions@editage.com](mailto:submissions@editage.com)

**ed/tage**  
by CACTUS